

～浪江を日本一の花の町へ～

特定非営利活動法人Jin 代表 川村 博さん

浪江を花の町に

■現在の活動

浪江町の農場で「トルコギキョウ」をメインに、花や野菜を栽培しています。トルコギキョウは、大きく華やかな花弁で花もちが良く、ブライダルや贈答用で人気があります。私たちの花は高品質で、市場でも高単価で取り扱われています。

また、同じ場所で福祉事業所も運営しています。利用者は自由に、作物を栽培したり体操をしたり活動しています。私たちは作ったものを売るお手伝いなどを行っています。これからは制度に頼るのではなく「自分ができることは自分でやり、できないことがあれば助け合う」支え合いの仕組みが必要だと感じています。



トルコギキョウと川村さん



収穫前のトルコギキョウ
まだまだいい花がいっぱいあるそう

ふるさとのきれいな風景をつくりたい

■活動のきっかけ

震災前は町内で福祉事業所の運営をしていました。震災直後は利用者と共に避難し、1週間以上かけて利用者を家族に送り届けることもしました。避難所や仮設住宅での活動を経て、震災から1年後に南相馬市で初めて農園を始めました。それぞれやれることが豊富にある農業は、利用者にとって最適でした。

避難指示区域の見直し後、戻った浪江は荒れ果てていました。「ふるさとのきれいな風景を取り戻したい、やはり農業が必要だ」と浪江でも農業を始めました。放射線量・風評被害の問題から食べ物は厳しく、ちょうど県の営農再開事業で行っていた「トルコギキョウ」に着目しました。トルコギキョウづくりの先生に一から習い始めましたが、教え通り作れた人は私だけのようなのです。現在では市場でも高い評価で、私の栽培方法を手本にしようと、ハウスにカメラを設置して記録するほどになりました。

最近では周りでもトルコギキョウを栽培する農家がでてきたので、この流れで若い人が浪江で花農業を始め、浪江全体を花できれいな町にしたいと考えています。

農業を始めるまたとないチャンス、若い人にもぜひ来てほしい

■活動を通じての思い

町全体で年間花を1億円売り上げ、浪江を日本一のトルコギキョウ産地にすることが当面の目標です。産地と呼ばれるようになれば町の人々も喜ぶと思います。

10年後・20年後を考えると若い人が必要です。ぜひIターンやUターンで若い人が浪江に来てほしいと思っています。農業は自分の思ったようにやれて楽しく、新規就農の補助（※）もあるので、今がチャンスだと思います。

※補助制度

- ・ [就農支援制度](#)
- ・ [被災12市町村農業者支援事業](#)

■被災者への支援について

これからの被災者への支援は非常に高度な内容を求められます。自立の邪魔になってはいけません。自分ができることは自分でやる、できないことは助け合うことで人は元気になります。たとえば、うちの農園でも障害のある人がハウスを作り、周りに頼られていたりします。それぞれが役割をもって活動をしていくことが必要だと思います。

■川村さんにとって復興とは

特別、復興のためにと考えて取り組んでいるわけではありません。自分が育ったふるさとで、すごく自然なこととして今の活動を行っています。

一人ひとりの「浪江が元気になるために何かをすること」が大きな力になるんだと思います。その何かは、草刈りでも浪江の物を買うでも何でも良いと思います。

■メッセージ

やっぱり若い人に来てほしいと強く思います。土が好き・農業をしたい・地域を元気にしたいと思う人は、ここに遊びに来て損はないと思いますよ。



収穫直前のハウス。彼岸を前に出荷されます



新たな苗の世話をされる川村さん。たっぷり水をあげることで、花がより大きく華やかになるそうです。

↓すべてサラダ農園の花です

